

平成 28 年 8 月 31 日
大阪堂島商品取引所

新潟コシ先物セミナーのご紹介

開催日時：平成 28 年 8 月 23 日（火）14 時～16 時
場 所：ホテルラングウッド新潟（4F、越後西）
参加人数：70 名

先般開催致しました新潟コシ先物セミナーについて、一部ご紹介致します。

講演「コメ先物取引をやってみた」

講師：大潟村農業協同組合

代表理事組合長 小林 肇 氏

取引を始めるためには、商品先物取引業者の選択、取引ルールの理解、先物取引口座の開設が必要。取引を始めるきっかけは、農家にとってコメ先物取引が役立つのか知りたいという思いから。実際に取引をした結果、先物市場で注文が成立すれば、その価格から諸経費（運送費、倉庫関係費用、商品先物会社手数料）を差引いた価格が所得になる。現物を持っている生産者であれば、先物価格と現物価格を比較しながら現物を渡すことが出来るほか、所得安定機能を持ったコメ先物取引を熟知することは大切と感じた。コメ先物取引の経験談については、具体的な金額を上げて説明。



解説「新潟コシ先物取引について」

大阪堂島商品取引所

標準品は、新潟県産コシヒカリ（検査規格水稻うるち玄米 1 等品）。供用品も新潟県産コシヒカリ（検査規格水稻うるち玄米 2 等品）。取引単位は、新潟コシ 1 枚

につき 25 俵（50 袋）1,500kg。受渡場所は、取引所が指定する新潟県内の営業倉庫。取引期限は、最大 1 年先までの 6 限月制（偶数月）。受渡方法（期日受渡し）は、荷渡指図書と在庫証明書を採用。



講演「新潟コシ先物取引に期待」

講師：新潟ゆうき株式会社

代表取締役 佐藤正志 氏

国内市場は、コメ需要が毎年 8 万トン減少傾向。平成 30 年には経営安定対策直接払い（7,500 円）が廃止になるほか、国による需要配分が無くなる。餌米により需給が安定してきたが、補助金の維持が懸念される。グローバル市場は、人口増加による食料不足が懸念されるほか、海外需要を取り込む事等が課題。生産現場では、高齢化による担い手不足や米価の低迷とコスト高が続く等、厳しい状況にある。

今、平成 30 年以降の状況が読めないことへの不安を感じているが、新潟コシ先物は、売りヘッジや買い入れ価格の目安になるほか、代金回収の安全性、米価決定の影響等について期待している。

コメ先物セミナー
新潟コシ先物取引に期待

新潟ゆうき株式会社
代表取締役 佐藤 正志
平成28年 8月23日

以上